

令和6年度農林施策を西脇知事に提案

府農業会議

京都府農業会議(栗山正隆会長)は、11月9日、「令和6年度京都府農林施策及び予算に関する提案」を提出し、西脇隆俊知事、山下晃正副知事と意見交換した。

持続可能な農業・農村へ

「地域計画」策定・実現の支援、気候変動対策など要望



西脇知事(左)に提案書を渡す栗山会長(11月9日)

提案の重点項目では、食料・農業・農村基本政策の新展開を踏まえ、生産コストを反映して農産物を適正価格で取引する仕組みづくり、離農者の農地を引き受ける「担い手」支援と半農半Xなど「多様な農業人材」の支援事業創設などを提案。これに続けて、①地域計画の策定・実現に向けた支援の持続可能な農業・農村づくりへの支援④人材育成に対する支援⑤スマート農業や有機農業の導入支援⑥所得向上につながる農業ビジネス支援⑦の5項目にまとめ

て提案した。具体的には、集落連携1000軒農場づくり事業の拡充(中山間地域タイアップ創設)、新規就農者を支える技術指導者登録制度の創設、府独自の有機農業推進戦略の検討、農業大学校の人材育成機能強化などを求めた。

このほか、喫緊の課題である集落営農の経営継承支援、気候変動対策の「遮熱遮光資材」などの導入支援、高温耐性品種開発、高温障害対策技術の普及など、農業委員会の活動支援、若手農業者の活動支援などについて要望した。

西脇知事は、「普及センターによる伴走型の支援と農業大学校の機能充実などで農業人材育成の取り組みを強化したい」と応じ、提案した内容におおむね賛同した。

また、山下副知事は、「規格外のB級品も加工に回して農家所得に変えるなど持続可能な農業・農村づくりの力を入れたい。府庁と協力関係にある団体が相互にデータを活用できるようなDXの進め方も検討したい」と応じ、提案を施策に活かす考えを示した。

舞鶴高専と共同で実証 舞鶴市農業委員会

舞鶴市農業委員会と舞鶴工業高等学校(舞鶴高専)が白糸・青葉地区で取り組む「ドローンを活用した遊休農地調査の実証研究」が今年で3年目を迎えた。今年は、初めて農地台帳の地番図を用いてドローン映像の確認を行うことで地番特定の所要時間短縮に成功。来年度も引き続き、ドローンなどを活用した効率的な農地確認方法の研究開発を続けていく。

白糸・青葉地区では、9月14日と10月30日に地

り組みの振り返りと来年度以降のドローン活用方法の検討を行った。その結果、衛星写真の活用と比べて、ドローンは映像が鮮明で農地の状況が分かりやすく、住宅裏の農地など立ち入り困難な農地を容易に調査して判定できる半面、広範

過去最多の生産者・バイヤーが参加

(売り手70事業者×買い手91社)

販路開拓に期待 きょうと農業ビジネス商談会

京都府と府農業会議は、府内の農業生産者等の販路開拓を支援するため、10月25日、「きょうと農業ビジネス商談会・展示会2023」を開催



では、土壌に多く含まれ、植物に必要な養分である「硫黄」で被覆した肥料を用いて水稻を栽培し、収量や品質、土壌への影響などを調査した。その結果、硫黄被覆肥料を用いた水稻の収量は地域の平均と同程度、食味など品質面でもプラスチック被覆肥料と同等で、土壌理化学性に差は認められなかった。

農林センター

硫黄被覆肥料で水稻栽培を脱プラ化！

これにより、水稻では脱プラ化の実現に硫黄被覆肥料が有効であることを実証できた。

「農業簿記講座」受講生を募集

税理士による2日間の講座で簿記の基本を学び、経営管理や青色申告に役立つ「農業簿記講座」が府内4会場で開催される。京都府農業会議と京都府農業共済組合が、府内の農業者を対象に受講生を募集している。

【南丹】11月27・29日(ガレリアかめおか)、【京都山城】12月4・5日(八幡市文化センター)、【丹後】12月7・8日(アグリセンター大宮)、【中丹】12月14・15日(中丹勤労者福祉会館)で、定員は各20人。いずれも午後1時30分～4時30分の日程で行われる。参加費は無料。詳細は、府農業会議のホームページ、または075・417・6847まで。

女性委員が「つないで発信」

福知山市農業委員会と農地利用最適化推進委員(計50人)は、担当地で「農地農政相談」を域の農家から相談を聞行っています。農業委員

「農地農政相談」を毎月開催



「農地農政相談」の時間は、農家の意見や要望を直接聞くことができ、委員相互の情報交換・意見交換・打ち合わせの場としても有効に活用しています。

最近では、「もっと相談者を増やしたい」と思うようになったので、お知らせチラシを作って担当集落に配布しました。(福知山市農業委員会・片岡美恵子委員)

相談に対応する左から和久委員、桐村委員、片岡委員(11月10日)

京 都

京都府支局 京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 府庁西別館内 075・441・3660

ドローン映像と「農地台帳の地番図」を照合、短時間で農地特定に成功！



ドローンで遊休農地を調査したメンバー。後列左から安永委員(林委員、越後委員)、二谷委員、前列左から藤村委員、前田委員、舞鶴高専の西村技術専門職員(事務局の坂村さんと松永さん)手前は調査に使用したドローン(8月22日)



農林センターでは、硫黄被覆肥料による水稻の栽培試験を行い、「肥料の脱プラ化」技術の実証に取り組んでいる。水稻栽培で普及しているプラスチック被覆肥料は、肥料成分の溶出時期を調節することで追肥の作業省力化と水稻の生産安定に効果がある一方で、プラスチック殻が完全に分解されずに河川や海洋へ流出していることが近年問題となっている。

そこで、農林センター硫黄被覆肥料(左)とプラスチック被覆肥料(右)